

登場,全国の仲間たち

光村の新しい教科書では,生徒たちの体験や生活に根ざした
題材設定を心がけるとともに,彼らが作品にかける思いや制作する姿,
試行錯誤を経て完成させる喜びに目を向け,等身大の中学生の姿を取り上げました。

作品を,作者である 生徒とともに

『美術2・3』P26~29
「自画像,今を生きるあなたへ」

自画像の題材では,制作した生徒が
自分の思い出の場所に立って,作品
を手にする姿を掲載しました。
同じ中学生の姿と作品を大きく取り
上げることで,生徒一人一人が仲間
意識をもって,自らも思いや内面と
向き合い,制作に取り組めるよう配
慮しました。



表現の過程を 丁寧に追った 「みんなの工夫」

「みんなの工夫」というコーナーを
新設しました。実際の授業で,生徒
が作品を発想してから完成させるま
での試行錯誤の様子を取材し,掲載
しています。



【みんなの工夫】今の自分を見つめ,あらわそう

あなたは何かが好きで,どんな性格で,どのように成長していくのだろう。
鏡に映る自分と向き合い,絵にあらわしてみよう。

●自分の内面を描くことにした岩切さん



何枚も下描き
して,アイデア
を練る。「絵を
描くのが好き
だから,手は
入れたいな。」



「手は大切なモチーフ。丁寧に
色を塗ろう。」



自画像
紙,鉛筆,アクリル
53.6×37.7cm
生徒作品
自分にはいろいろな面
があります。そんな自分
の複雑な内面を,画面
を分けることであらわし
ました。手で何かをつか
み取るような感じが出せ
てよかったです。



「4ページ題材」

「自画像,今を生きるあなたへ」は,
4ページ続きの題材になっていま
す。はじめの2ページは,自画像
をもつ同じ中学生の姿で学習意欲を
高めることを意図しており,続く2
ページは生徒自らが表現する際の参
考になる作家作品や「みんなの工夫」
などの内容で構成しています。
2ページで導入の内容を,続く2
ページで制作の手助けとなる内容を
示した「4ページ題材」は,自画像
の他『美術1』『美術2・3』合計で
5本掲載しています。

編集方針②
授業で十分に
活用できる教科書

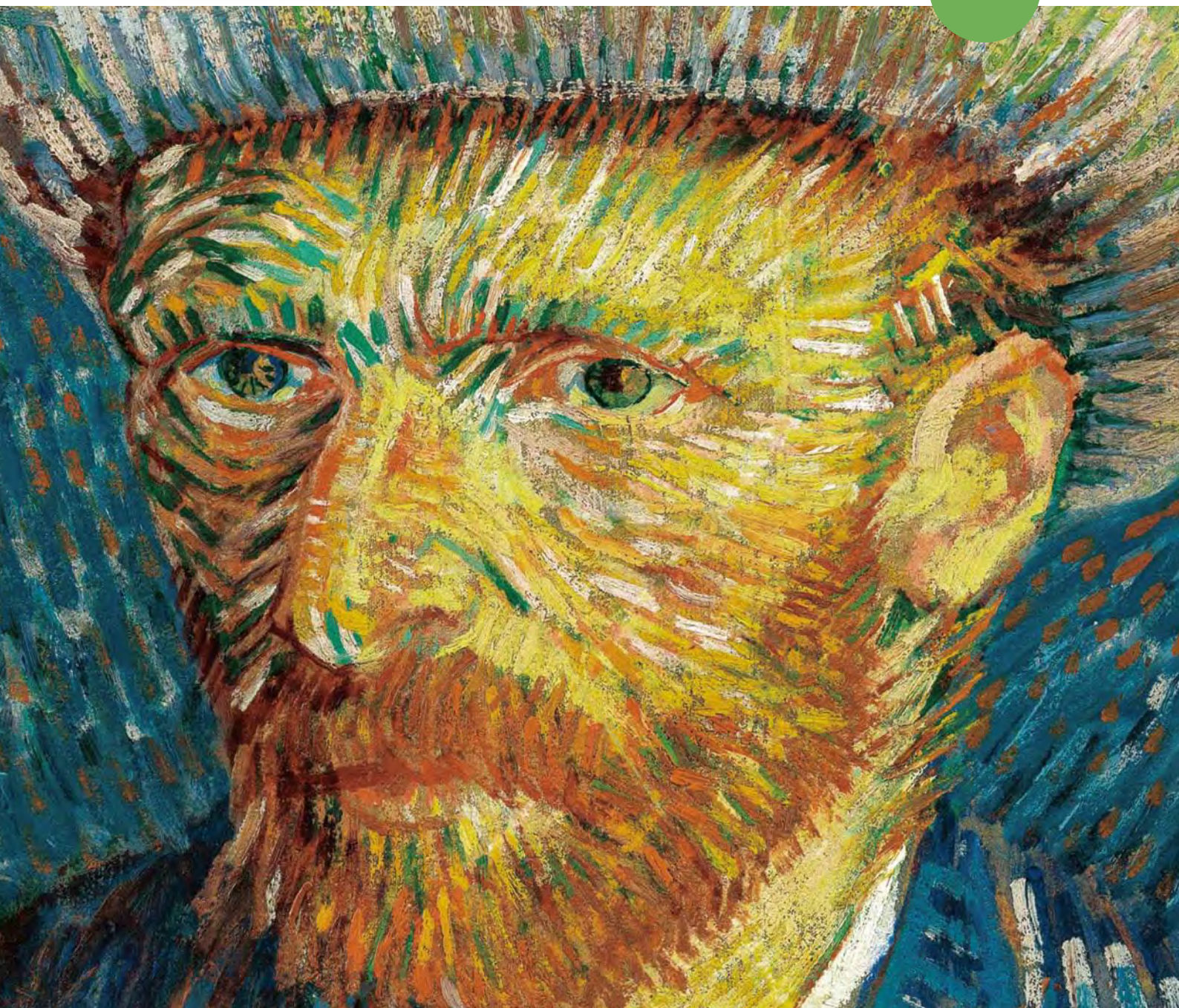
心を揺さぶる, 迫力の鑑賞図版

生徒たちの学習意欲を高められるよう、
大胆な紙面構成で生徒たちの
興味・関心を刺激する工夫をしています。



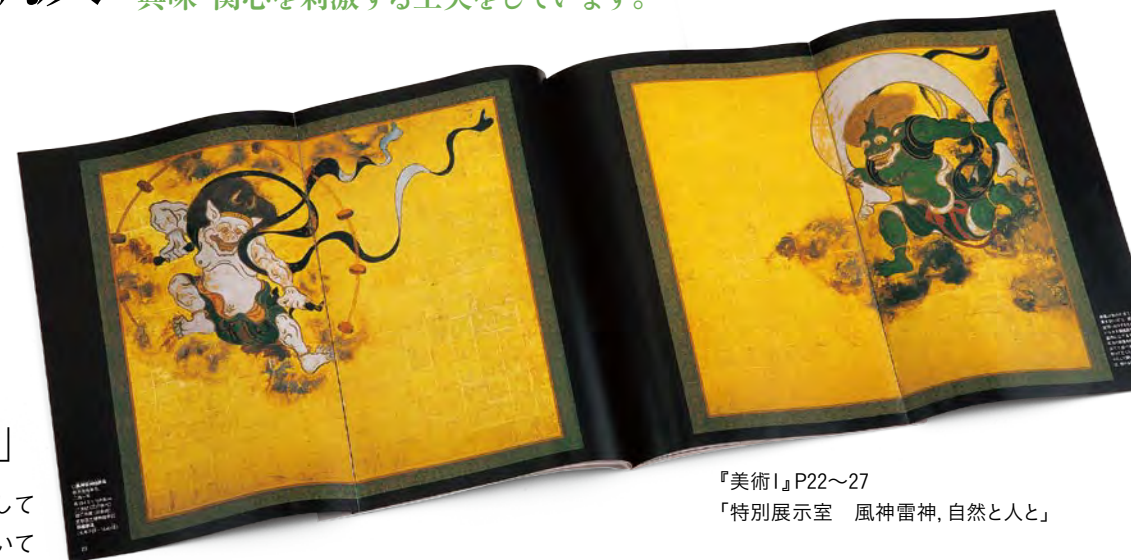
「原寸大で鑑賞しよう」
『美術2・3』P24～25
「原寸大で鑑賞しよう 灰色のフェルト帽の自画像」
1 ページ以上の紙面を使って、作品の部分を原寸大に掲載した鑑賞中心の題材です。作品の細部まで見ること、鑑賞がより深まるだけでなく、自らの表現活動にも生かすことができます。同様の題材は、他にも『美術1』『美術2・3』合わせて3本掲載しています。

原寸大



平成24年度版より 継続!「特別展示室」

平成24年度版より鑑賞題材として
設け、たいへんご好評をいただいていた「特別展示室」。新しい教科書ではさらに工夫しています。



『美術1』P22～27
「特別展示室 風神雷神, 自然と人と」



『美術2・3』P40～45
「特別展示室 ゲルニカ, 明日への願い」

新たな工夫

「ゲルニカ」では鑑賞している生徒のシルエットを添えて、作品の大きさを実感できるようにしました。

本物の色の追求 ～「金色」を使った印刷への道～

平成24年度版より「特別展示室」で取り上げている俵屋宗達の「風神雷神図屏風」。全国各地の学校で、鑑賞の題材として多くの実践が行われています。
平成28年度版教科書では、この作品の「金色」を追求し、本物の色を再現しようと試みました。平成26年に東京国立博物館で開催された特別展「栄西と建仁寺」へ編集者と製版技術者が出向いて本物を見ることから始まり、約半年間、試行錯誤を重ねました。そして、通常のインキに加え、「金色」のインキを使って印刷することで、これを再現しました。



「栄西と建仁寺」展へ出向いた製版の技術者。本物を見る前、緊張した面持ちだ。



上／印刷で実際に使用したインキ。金色の微粒子を混ぜ合わせている。
下／印刷に向けての最終打ち合わせ。製版、インキ、印刷の研究など、試行錯誤を繰り返した。

一日の流れで、
美術を感じる

中学生の1日の生活を追う形で、美術に囲まれた毎日の様子をわかりやすく示しました。

生徒たちが日常生活やそれぞれの将来において
美術科で身に付けた力を生かせるよう、美術が私たちの暮らしや社会を
美しく豊かにしていることを実感できるよう構成しました。

「生活に生かそう」
マーク

表現中心の題材では、作品を暮らしの中で飾ったり使ったりする活動を取り上げ、マークを使って明確に示しました。

■生活の中に作品を飾ろう 生活に生かそう

描いた作品を校内や家に飾ろう。作品を飾ると、
その場の雰囲気ふんいきが明るくなる。



額縁 木, 彩色 15×20cm 各生徒作品

『美術I』P11「見て描く楽しみ」

平成28年度版を編集して
上野行一 中学校『美術』教科書著作者

光 村の新しい教科書は、生徒が主体的に取り組み、豊かに発想し、創造的に表現・鑑賞する学習を支えます。

教科書を開いてみると、目にも鮮やかな大きなサイズの作品が目飛び込んできます。一目で生徒の心を揺さぶられ、意欲的に鑑賞を始めることでしょう。豊富に紹介されている生徒作品や表現の過程、工夫の数々は、発想・構想を促し、主題の生成を支援します。さらに、形や材料、色彩など共通事項に関する内容や、発想・構想の方法、表現技法の基本など、『美術1』だけでも20ページにわたる資料ページが、生徒の自立的な学習を支えます。

教科書は先生にとっても使いやすくあらねばなりません。私たちは全国の美術科の先生方の声を基に、授業で十分に活用できる教科書を目指しました。効果的な授業の導入、鑑賞作品の充実、豊富な資料など、題材ごとの学習を念頭において構成しています。

また、暮らしや社会とのつながりも重視しました。私たちの暮らしや社会は美術に囲まれて成り立っており、美術を学ぶことが暮らしや社会を考えることに結びついていることを生徒に実感してもらうことが大切だと考えたからです。それは伝統文化の理解にもつながります。日本の伝統文化に関する内容についても、新しい教科書ではさらに充実を図りました。

今の中学生が社会で活躍する頃には、社会構造や職業の形態が大きく変化していることでしょう。その変化を乗り越えていくために、伝統や文化に立脚した自立・協同し創造的に生きていく資質・能力の育成を念頭に置き、光村の新しい教科書はさらに進化しました。

うえの・こういち

元帝京科学大学教授。
近著に、『風神雷神はなぜ
笑っているのか』
(2014年、光村図書)。

『美術2・3』P5～7
「朝起きてから夜眠るまでの美術」

『美術2・3』P70～71
「暮らしやすい町づくり」

新版教科書
紹介

社会に生きる、
美術の力

美術の力によって社会の課題を解決しようとしていたり、暮らしをより豊かにしていたりする例を、題材で取り上げました。